

## 「研究のあゆみ」に寄せて

幼児期の子どもたちが、運動遊びを充分に行うことは、運動能力を発達させるばかりでなく、日常生活における望ましい生活習慣の形成を促す可能性のあることは、さまざまな調査や研究などで報告されています。本年度に行われた柏市幼児教育共同研究の調査でも、外遊び時間の多い子どもは、「就寝時間が早い」、あるいは、「朝食を毎日摂取する」など生活習慣が望ましい傾向にあることがわかりました。同様に、外遊び時間の多い子どもは、「テレビ視聴時間が短い」、「ゲームをしない」というようなメディアとの関わり方、さらに、「遊び友達の数が多い」、「保護者とよく遊ぶ」、というような人との関わり方についても望ましい傾向にあることが明らかになりました。このような結果は、幼児期において、外遊びなどの身体活動を充分に行うことが、望ましい基本的生活習慣の形成ばかりでなく、メディアとの関わり方や人と人との関わり方などの形成にも影響していることを示唆していると考えられるでしょう。

文部科学省では、全国の児童・生徒（小学校6年、中学校2年）を対象に「全国学力・学習状況調査」を毎年行っています。この中で、朝食摂取や就寝時間など基本的生活習慣が身につけている者は、学力が高い傾向にあることが報告されています。また、学力の高い者は、学習習慣の確立、メディアとの関わり方、人や社会との関わり方や規範意識などが望ましい傾向にあることも報告されています（国立教育政策研究所：平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について（概要）別紙より）。

Boreham と Riddoch は、こども時代に身体活動を伴う遊びや運動習慣によって形成された基本的な生活習慣を保つことは、将来にわたって健康な状態を保つことができる、という「身体活動・健康状態の持ち越し効果」という考え方を示しています。幼児期に身体活動を充分に行い、生活習慣を整えておくことは、その後の生活習慣の持ち越し効果ということを考えると極めて重要であるといえます。また、文部科学省の調査に見られる学力と生活習慣との関連を考えると、幼児期からの生活習慣は、児童期・少年期における学習成果につながるばかりでなく、学習習慣、人や社会との関係や規範意識などの望ましい形成にも影響を与える可能性があるのではないのでしょうか。このことから、幼児期の子どもたちが、運動遊びによって充分に身体を動かすことは、彼らの将来にとって重要な意義を持つと考えられます。

柏市幼児教育共同研究「こころ からだ はずむ 柏っ子」の活動は、今年で6年目を迎え、新たなステージを迎えました。将来に向けた子どもたちの健やかな成長を考えると、本研究は、極めて重要な課題に取り組んでいると言えましょう。この新たなステージでは、これまでの研究蓄積をもとにした各園での実践が、より一層深められていくことと思います。共同研究のあゆみには、各園におけるこの一年間の取り組みがまとめられており、子どもたちが楽しみながら、意欲的に取り組むことのできる貴重なヒントやアイデアが数多く含まれています。これらを、互いに共有し、実践に役立てていただきたいと思います。

来年度以降も、共同研究推進委員会の先生方を中心として、各園の先生方のご協力のもと、さらに本研究の推進、充実が図られることを願っております。